

発行日 平成 27 年 3 月 3 日

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」フォーラムニュース 73号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180

E-Mail Hcsm-hq@eco-texj.co.jp

早春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース73号をお届けします。

1月15日 第65回研究フォーラムセミナーが開催されました

ご出席の皆様方から近況をご報告いただきました。



引き続き、近藤事務局長から「純正国産商品のための『J∞QUALITY 商品認証事業』」について資料の配布と、次のような講演をいただきました。

＜配布資料 ①純正国産商品のための「J∞QUALITY 商品認証事業」スタート

日本のクオリティ・オブ・ライフを象徴するファッション商品を本格展開

②運営体制図（資料1～5-②）

>

「本日のフォーラムは、繊維の新たな取り組みである J∞QUALITY の概要を説明します。」と前置きの後、「昨日、J∞QUALITY の記者発表がありましたように、小池百合子衆議院議員が“J∞QUALITY

をやります”と強調され、経産省の関政務官も“経産省は J∞QUALITY を繊維政策の柱とする“と挨拶されるなど、J∞QUALITY は国を挙げての取り組みになる」と強調しました。

日本ファッションのインダストリアル・コードの提案

エコテック・ジャパン(株)の関与： 2013年11月から始まった当プロジェクトを提案したのがエコテック・ジャパン(株)。

「米国には SAC (サステナブル・アパレル) があります。ヨーロッパには BSCI (ビジネス・ソーシャル・コンプライアンス・イニシアティブ) というグローバルな組織があり

ます。そこには日本の小売店がわずかしか入っていません。SAC には東レやユニクロが入っております。BSCI ヨーロッパには日本のイオンが入っています。そこが安心・安全のコンプライアンスをきちっと評価としてとらえています」。

「日本ファッション産業協議会の三宅正彦会長とともに、“日本発の安心・安全コンプライアンスを、アパレル、ハンドバックや靴などを含めた、日本を纏うという日本の業界そのもののコンセプトで、日本の業界スタンダードを作り日本発商品を世界に発信しましょう”と経済産業省と取り組んでまいりました。アパレルに CSR があるのかという意見も聞かれましたが、1年3か月経過し、皆さんに理解していただいて、純正国産商品のための「J∞QUALITY 商品認証事業」がスタートすることになりました。

三宅会長と経産省にはさらに、“日本のファッションのインダストリアル・コードを作りましょう”と説明しています。世界に発信できるようなインダストリアル・コードを作っていないと輸出できません。アパレルを輸出しようとしても、誰が、どこで作ったかを問われて、何も説明できないアパレルは商品を輸出できません。誰が、どこで作ったかを証明しそれを説明する説明責任がないといけません」。

J∞QUALITY 商品

「今回の J∞QUALITY 商品は、人権問題や労働基準法、環境法などを守った企業で作った商品であり、尚且つ日本国内で織・編み、染色加工、縫製したものという純正国産商品であることが必要になります。WTO によると、日本で縫製を行えばメイド・イン・ジャパンと表示できます。今回の取り組みは、純正の日本の商品をつくりましょうということで議論が色々出ましたが、経産省より織・編み、染色加工、縫製を日本で行うこととしました。ただ、糸は日本で染めないといけません。染糸を輸入してはいけません。生成りの糸を輸入して染色する。その糸を使っていくわけです。



加えて、アパレルの宿命である創造力ですが、アパレルも企業認証を取得する必要があり、織・編み、染色加工、縫製の各段階でも、それを取得しないと当事業に参画しないとメイド・イン・ジャパンを証明できないシステムとなっています」。

J∞QUALITY 商品認証事業について

目的：J∞QUALITY 商品の優位性を高めるとともに、J∞QUALITY 商品の品質確保及びさらなる向上を目指し、国内外の市場における J∞QUALITY 商品の認知度の向上と需要の拡大を図ること。

運営体制

「事業を推進する一般社団法人日本ファッション産業協議会の傘下に J∞QUALITY 商品認証事業戦略委員会（戦略委員会）を置きました。委員長は日本ファッション産業協議会三宅正彦会長。



委員は日本アパレルファッション産業協会・廣内武理事長、日本繊維産業連盟・下村彬一会長、日本百貨店協会・茶村俊一会長、クールジャパン機構・太田伸之社長、ミナペルホネン・皆川明デザイナーで構成しています。我々CSR 研究フォーラムとエコテック・ジャパン(株)は、最終商品認証部（部長：繊維評価技術協議会・中里健司専務理事）の外部の第三者認証機関に所属します。事業の申請書は、我々のところに回り次第、それを検討していくこととなります」。

J∞QUALITY 認証の申請資格：①「安全・安心・コンプライアンス企業認証」と「縫製企業認証」については、日本法人であれば申請する資格を有します②「J∞QUALITY 商品認証」についても、日本法人であれば申請する資格を有します。

ただし、日本ファッション産業協議会及び日本繊維産業連盟傘下の団体のいずれにも属さない企業による申請手続きについては、本制度の実施状況を勘案しつつ、別途定めるものとする。

「企業の認証は、縫製工場、織・編み工場、染色整理加工の各工場で1つずつ認証を取らないといけない。一方、商品としての認証は、今回は日本アパレルファッション産業協会に参画している企業や日本繊維産業連盟及び日本ファッション産業協議会などに入会している諸団体の企業が商品の認証をとれます。また、世界に通用するには透明性や安全性などを何で担保しているかの作り手の見える安心安全な商品であることに必要性も説いています。J∞QUALITY 商品認証は、2月1日から受け付けます」。

「J∞QUALITY 商品認証事業」の流れ

資料：「J∞QUALITY 商品認証事業」は、「安全・安心・コンプライアンス企業認証」と「縫製企業認証」の2つの企業認証が前提。商品ごとの「J∞QUALITY 商品認証」を行うという2段階の認

証事業となる。

「第1段階の対象は縫製工場とアパレルの企業です。織・編み、染色加工、縫製工場とアパレルの4つの企業体が安全・安心・コンプライアンス企業認証を申請し、認証を取得する形です。また、縫製工場については色々ともめました。改めて縫製企業認証を取得しないといけないことになりました。縫製企業は、安全・安心・コンプライアンス企業認証と縫製企業認証を同時に申請することになります。

この2つの認証企業が織・編み、染色、縫製によって作ったモノを、アパレルが申請して J∞ QUALITY 商品認証という次の第2段階に入ります。この商品の認証は、品番ごとに1品番1万円という申請書を持って（・・・2年間有効）シーズンごとに申請します。

申請書には、所属する団体や組合名を記入する欄があります。つまり、団体などに入っていない企業は排除されます。1年ほどは続くと思います。商品認証にはもう1つ、J∞QUALITY 商品の生産工程について質問する項目があります。必須であり、商品の織・編み物はどこで、誰が作ったのか、それは企業認証の安全・安心・コンプライアンスの認証を受けた登録番号を記入して下さいとあります。

第3段階は縫製です。縫製企業が企業認証等未取得していなければその部分が空欄になります。その場合は申請できません。3工程が皆揃ってはじめてアパレル企業が商品認証申請書を提出できるわけです」。

「以上が認証の流れです。認証は、2015年の秋冬物の商品が対象です。J∞QUALITYのマークの付いた商品の数量は、当初100万着前後を見込んでいます。ただ、その中にはまだジーンズなどの商品は入っておりません」。



近藤事務局長は以下、改めて申請資格、定義、ロゴマークとブランディング活動について資料に基づいて説明されました。

ブランド名

ブランド名：J∞QUALITYのブランド名は、JとQUALITY、そして2つのワードを結ぶ無限大を意味する記号∞から構成。また、無限大の可能性を示したシンボルマークは、ネガとポジで構成し、それぞれが日本の技術と日本の美意識、生み出す作り手と愛用する生活者を象徴している。2015年度のコミュニケーションワードは、「日本を纏う It's "Japan Quality"」。

安心・安全・コンプライアンスに関わる認証ガイドライン

「ウェブサイトで宣言書に記入する時点で、認証ガイドラインが出てきます。各工程共通で責任・従業員関連の法令遵守、環境・省エネ、消費者の安全の担保、企画販売工程での安全及び安心、などを守っているかについての説明があります」。

近藤事務局長は最後に、「今後、日本のファッションのインダストリアル・コードのようなものを作りたいので、次回は皆さんのご意見をお聞きしたいと思います」と話され講演を終えました。

<お知らせ>

- ・第66回研究フォーラムセミナーを下記のように予定しております。

2015年3月19日木曜・14:30~17:00

講演テーマ 「J∞QUALITY・・・その2」

(前回、上記講演「ジャパンブランドの確立と安全安心コンプライアンス」の続き)

講演 事務局長・近藤繁樹

- ・第13回「CSR & コンプライアンス国際フォーラム2015」

2015年5月21日木曜・午後 場所：江戸東京博物館

内容は現在、企画中です。4月初旬に詳しいご案内を差し上げますので、ひとまず日時をご予定いただき、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

以上